

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2017/8/21	
所属部局・職	野生動物研究センター・博士課程学生
氏名	榊原香鈴美

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
ポルトガル、エストリル	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
Behaviour2017 でのポスター発表	
3. 派遣期 (本邦出発から帰国まで)	
平成 29 年 8 月 1 日～8 月 6 日 (6 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
-	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
<p>写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。</p> <p>7 月 31 日～8 月 4 日に開催された国際動物行動学会にて『Differences of approaching to underwater swimmers by sex, age class and swimming order in the wild dolphins』と題してポスター発表を行った。8 月 2、3 日の 15 : 0 0～1 6 : 0 0 が自身のコアタイムとなっており、多くの研究者と意見を交換することができた。同学会でポスター発表をしていた PWS 田中美帆さん (L2) の結果と私の研究発表の両方を聞いてくれたフランスの学生のコメントが非常に面白く、自身の研究を邁進するモチベーションが上がった。隣のポスター発表は、スコットランドのハンドウイルカの生息地利用を調査した結果で、同海域でも季節によって行動時間帯が変化するという、昼・夜行性にとられない海棲哺乳類の生態の特性が示されていて興味深かった。招待講演者の Susan Healy 氏の鳥の巣づくりに関する研究発表は結果が明快で設問の立て方や手法において参考になる点を多く感じた。オスが繁殖に成功した時の巣材の色を学習することに驚いた。口頭発表では、コウモリの超音波のコミュニケーション利用に関する研究が興味深かった。本大会に参加したことで、自身が観察対象としている鯨類にとどまらず幅広く生き物の特性について理解が深まった。</p>	
 	
6. その他 (特記事項など)	
<p>ポルトガル自主フィールドワーク実習を企画、サポートしてくださった PWS 井上漱太さん (L2)、平田聡教授、PWS 支援室のみなさまに心より感謝申し上げます。急な日程変更にご対応いただき誠にありがとうございました。</p>	